

最優秀賞に選ばれ、朴総領事[㊦]から記念のカップを受け取る成瀬さん=名古屋市中村区で



日韓 相手国の言語でスピーチ

名古屋 大学生らのコンテスト

県内外の日韓の大学生らが、相手国の言葉で語る韓日スピーチコンテストが二十六日、名古屋市中村区平池町の愛知大名古屋キャンパスで開かれた。

在名古屋韓国総領事館と日韓経済文化交流協会（名古屋市）が日韓の友好促進のために企画し、予選を通過した両国の二十三人が出場。「コロナ禍、韓国（または日本）がより好きになった理由」などのテーマでスピーチした。新型コロナウイルスの影響で往来が制限される中、会員制交流サ

イト（SNS）やオンラインを通じた交流の意義を伝える参加者が目立った。

最優秀賞に選ばれた愛知淑徳大二年、成瀬梨音さん（[㊦]）は「大好きな韓国への思いを伝えたい。将来は映像翻訳の仕事に就き、エンターテインメント分野で日韓の交流に貢献したい」と喜んだ。朴先哲総領事は「コロナで行き来できない状況が続いているが、お互いの立場を理解する気持ちや愛情は強くなっていると感じた」と話した。

（鈴木龍司）

2021年6月29日（火）中日新聞 朝刊 15面
この記事は中日新聞社の承諾を得て転載しています。